

【中学校国語】

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

□「話すこと・聞くこと」
・全国平均に比べ、上回っている。

□「書くこと」
・全国平均に比べ、上回っている。

□「読むこと」
・全国平均に比べ、上回っている。

□「言葉の特徴や使い方」
・全国平均に比べ、上回っている。

●事象や行為を表す語彙の意味として適切なものを選択すること。

●手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正すること。

●各領域において正答率は高く、本校の課題探究的な学習を今後も継続して進めていく。

○語彙を増やし表現を豊かにする学習機会を増やす。

○表記を確かめ、文章を整える学習機会を増やす。

○中等教育学校の特色を活かし、6年間の連続的な学びを行っている現行の取組を継続し、さらに発展させていく。

IBを活用した課題探究的な学習の効果

・課題探究的な手法をとおして、目的に合った構成で表現したり、構成の効果を読み取ったりすることができる。読み手・聞き手の立場に立って表現することにおいて、日常からATLスキルを用いて表現することに定着が見られる。

・記述式問題に対する無解答が極めて少なかった。国語科に限らず、各教科において記述することに抵抗なく取り組んでいることがわかる。

【中学校数学】

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

□「数と式」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「図形」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「関数」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「データの活用」

・全国平均に比べ、上回っている。

正答率 65%以下の問題について述べる。

● $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する。

●1 から 9 までの数の中から素数をすべて選ぶ。

○基本的に各区分及び領域において正答率は高く、本校の課題探究的な学習を今後も継続的に進めていく。

○問題文を数式に落とし込む練習を積み、示したい結論から逆向き思考によって目指す式の形を意識するような授業内容を工夫して行う。

○この問題を含め言葉の定義が曖昧なことが原因で間違えたであろう問題が多いので、具体例を用いて言葉の定義を確実に理解させる。素数は興味深い話題が多いので、エラトステネスのふるいや素数が無限個あることの証明等の話題にも触れ、興味・関心を持たせたい。
○中等教育学校の特色を活かし、6年間の連続的な学びを行っている現行の取組を継続し、さらに発展させていく。

IBを活用した課題探究的な学習の効果

・IBの学習サイクル「探究－行動－振り返り」の授業実践をとおして、数学の効果的な知識の活用や応用につながっている。
・記述式という問題形式や思考・判断・表現という評価の観点を問う問題の平均正答率が75%に迫ることから、既存の知識を使うだけでは解けないようななじみのない問題に対しても、粘り強く知識や技能を組み合わせさせて正解にたどり着くことができている。

【中学校理科】

今回の調査における課題

●電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付けること。

●【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる

●大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる

改善の方向

○電熱線（電気抵抗）に電流を流し、電熱線の発熱量（=水の温度上昇度）を調べる。発熱量が何によって決まるのかを考察するため、実験のデータやグラフを整理・分析する活動を充実させる。

○オシロスコープで、音の波形の観察し、音叉や弦を使って条件を変えながら振幅や振動数の比較をする。様々な波形の共通点を見だし、波の性質を理解する活動を充実させる。

○教室に数種類の拡大印刷した模擬露頭を掲示し、生徒はそれを観察する。観察をもとに、過去にどのような地学的出来事が、どの場所でどの順序で起こったのかを考察する活動を充実させる。

I Bを活用した課題探究的な学習の効果

- ・自分の疑問から仮説を立て、調査や実験を通じて解決することで、批判的・創造的な思考力を育てている。
- ・知識の習得にとどまらず、科学と日常生活とのつながりを、グローバルな視点で探究することで、好奇心や創造性を育てている。